

# ステップアップ 畜産！

西部農業事務所家畜保健衛生課（西部家畜保健衛生所）  
〒370-0074 高崎市下小島町 233  
TEL 027-362-2261、FAX 027-362-2260

## ～記事～

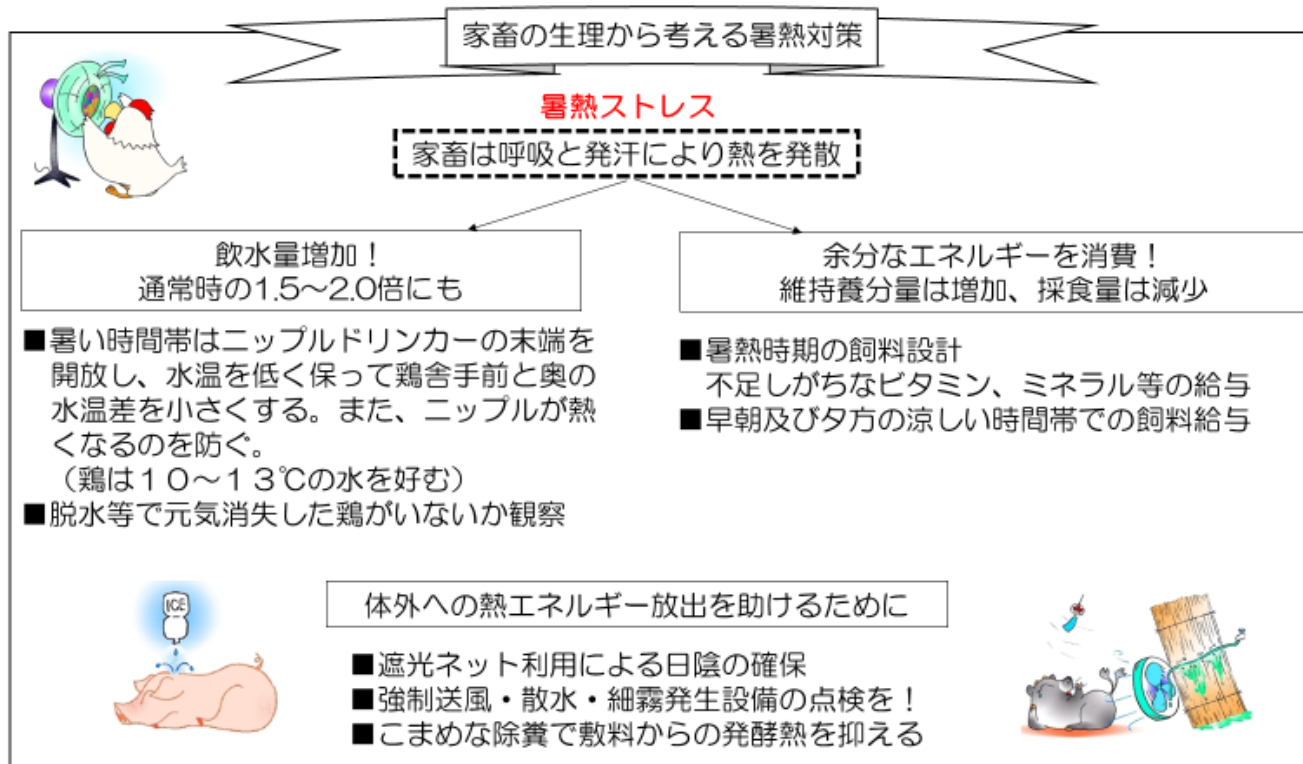
- ★暑熱対策に取り組みましょう！
- ★渡り鳥飛来シーズンを迎えるにあたっての HPAI 防疫対策
- ★飼養衛生管理に係わる立入調査等の協力をお願い
- ★高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の海外における発生状況
- ★豪雨による堆肥や汚水の流出に注意しましょう
- ★畜産GAP研修会のお知らせ

## ～添付資料～

- ★JGAP(畜産)について

## ★暑熱対策に取り組みましょう！

—生産性の維持と鶏の健康を守りましょう—



連日 35℃を越す猛暑日が続いており、床の乾燥につながっています。鶏舎内の飼育環境温度も非常に重要ですが、床の状態についても確認しましょう。

床の状態 (目安を記載)	乾燥しすぎ (床を手で握った後、そのまま崩れていく)	適正 (床を手で握った後、形を保ちながら徐々に崩れていく状態が理想)	湿りすぎ (床を手で握った後、形を保ったままくずれない)
注意点	脱水や 大腸菌症の誘発	-	腹冷えや 呼吸器症状の誘発

一飼養衛生管理を行う生産者の皆様においても、熱中症に十分ご注意くださいー

### 主な熱中症の症状

- めまいや顔のほてり
- 筋肉痛や筋肉のけいれん
- 体のだるさや吐き気
- ふいてもふいても汗がでる、もしくはまったく汗をかいていない
- 体温が高くて皮ふを触るととても熱い、皮ふが赤く乾いている
- ひきつけを起こす、まっすぐ歩けない
- 声をかけても反応しなかったり、おかしい返答をしたりする
- 自分で上手に水分補給ができない

など

- ★熱中症を疑ったときは、すぐに涼しい場所に移動し、身体を冷やして体温を下げましょう。
- ★症状が重いときは、医療機関への相談や救急車を呼びましょう



### ★渡り鳥飛来シーズンを迎えるにあたっての HPAI 防疫対策

先日、リーフレットを通知させていただきましたが、農水省より 2022 年～2023 年の疫学調査報告書がまとめられました。ハヤブサやカラス類といった野鳥もウイルスを持ち込む要因となりうる事が示されました。

つきましては、シーズンを迎える前<9 月中>に自身の農場を点検・確認し、発生予防対策の徹底をお願いします。

疫学調査報告書より野鳥侵入防止として以下が提言されています。

#### ★農場敷地内の整理・整頓：

- 草刈り、実のなる植物や木の剪定、伐採をして野鳥の巣作りや止まり木にならないようにする

以下について、引き続き点検・確認ほどお願いいたします。

## 1 衛生管理区域及び鶏舎への高病原性鳥インフルエンザウイルス侵入の防止

○人・物・車両によるウイルスの持込みの防止

- ・衛生管理区域及び鶏舎への人の立ち入りは最小限
- ・衛生管理区域に入る車両、人、物の消毒徹底
- ・衛生管理区域専用の衣服及び靴の着用、鶏舎ごとの専用の靴への履き替えの徹底



○野鳥・野生動物による侵入の防止

- ・防鳥ネットの設置・修繕、壁の破損・隙間の修繕
- ・鶏舎内外の整理・整頓・清掃で野生動物の隠れ場所をなくす



○飲用水・飼料へのウイルス付着による侵入の防止

- ・新鮮な水道水の使用（貯留したままにすると塩素濃度が低下します）
- ・水道水以外を使用する際には、遊離塩素濃度が 0.1ppm 以上含まれるように調整し、定期的に濃度を確認
- ・飼料タンク付近は清潔を保つ

## 2 健康な鶏の飼育

○鶏の健康管理及び取扱い

- ・健康な鶏の導入、死亡鶏の適切な処理及び消毒の実施
- ・適正な飼養密度と換気及び適正な飼料と飲水の給与

○鶏糞の処理

- ・鶏糞の適切な水分管理と十分な発酵
- ・やむを得ず農場外に持ち出す場合は、漏出しない運搬方法で実施
  - ※他の農場への病原体拡散防止
- ・堆肥舎への防鳥ネット設置



## 3 異常鶏を発見した場合の連絡体制の確認

○所有者、飼養衛生管理者、従業員及び管理獣医師において、異常鶏発見時の連絡網を確認し、遅滞なく家畜保健衛生所へ連絡する体制の確立

## ★飼養衛生管理に係わる立入調査等の協力のお願い

鳥インフルエンザのシーズン前に飼養衛生管理基準の遵守状況の確認をするため、8月から順次立入調査をさせていただきます。また、10月からは、HPAI モニタリング検査へのご協力もお願いすることがあります。

日程につきましては、家畜保健衛生所から連絡をいたしますので、ご理解とご協力をお願いします。



## ★高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の海外における発生状況

令和5年6月28日に南米ブラジルの養鶏場にて初めて発生が確認されました。ブラジルは日本にとって鶏肉の最大の輸入先であり、鶏肉輸入量全体の70%あまりを占めています。今回発生した南東部地域はブラジル全体の1%程度とされており日本への影響は限定的とされていますが、鶏肉の主要な生産地であるブラジル南部に感染が広がらないか今後も注視が必要とされています。

## ★豪雨による堆肥や汚水の流出に注意しましょう

この時期は、雷雨等による集中豪雨が多発します。近年では、これまでにはみられなかった量の雨が短時間に降ることで、全国各地で甚大な被害が発生しています。このような雨水が堆肥処理施設や汚水処理施設に流れ込んだ場合には、周辺の道路や田畑へ家畜ふんや尿汚水等が流出する可能性が十分に考えられます。

流出を未然に防ぐためには、最新の気象情報、警報、注意報を常にチェックし、事前に施設を点検し、必要に応じて補修するとともに、浸水のリスクを考慮して、防水・排水対策をお願いします。実際に被害が発生してからの復旧にかかる時間や労力は、被害防止のためのそれに比べ、甚大です。

## ★畜産GAP研修会のお知らせ

日時：令和5年8月31日(木) 14:00～16:30

場所：ぐんま男女共同参画センター 大研修室

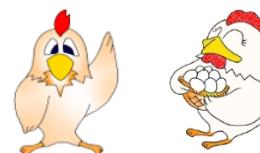
前橋市大手町1-13-12(群馬県庁の裏)

内容：畜産経営における農作業安全について

家畜改良センター奥羽牧場(肉牛)での取組事例等

問い合わせ先：群馬県畜産課畜産振興係

TEL：027-226-3106



西部家畜保健衛生所 〒370-0074 高崎市下小鳥町233

TEL 027-362-2261 緊急時には24時間対応します

FAX 027-362-2260

★ 畜産業を廃業された方に送付された場合は、お手数ですがご連絡ください。